

10	漢字の知識（漢字の使い分け）	40	36	32	28	24	20	16	12	8	4	44	47	11	隨筆（事実と意見）	第一 章	も ぐ じ	も ぐ じ	も ぐ じ	
		43	39	35	31	27	23	19	15	11	7				隨筆（細部の読み取り）					
20	漢字の知識（音読みと訓読み／熟字訓）	19	18	17	16	15	14	13	12	10	6	52	55	11	隨筆（主張の読み取り）					
															論説文（段落の要点）					
9	ことばの知識（熟語の組み立て）	8	ことばのきまり（文の組み立て）	7	詩（詩の知識）	6	説明文（文章の要点）	5	説明文（接続語）	4	説明文（指示語）	16	12	11	論説文（文章の構成）	第二 章	じ く じ	じ く じ	じ く じ	じ く じ
															論説文（主張の読み取り）					
															ことばのきまり（形の変わることば）					
															ことばの知識（ぎ音語・ぎ態語／たとえ）					
80	漢字の知識（音読みと訓読み／熟字訓）	76	79	72	75	68	71	64	60	56	52	48	44	19	短歌・俳句（短歌・俳句の知識）					
															ことばのきまり（形の変わることば）					
															ことばの知識（ぎ音語・ぎ態語／たとえ）					

## 第三章

21	物語（練成問題）	84
22	物語（練成問題）	88
23	物語（練成問題）	91
24	説明文（練成問題）	92
25	説明文（練成問題）	95
26	説明文（練成問題）	96
27	詩（練成問題）	100
28	ことばのきまり（意味をそえることば）	104
29	ことばの知識（ことわざ・慣用句・四字熟語）	108
30	漢字の知識（同音異義語・同訓異義語）	112
120		116
123		119
124		115
125		111
126		107
127		103

## 第四章

31	隨筆（発展問題）	124
32	隨筆（発展問題）	128
33	隨筆（発展問題）	132
34	論説文（発展問題）	136
35	論説文（発展問題）	139
36	論説文（発展問題）	140
37	短歌・俳句（発展問題）	144
38	ことばのきまり（敬語）	148
39	ことばの知識（類義語・対義語）	152
40	漢字の知識（覚えておきたい三字熟語・四字熟語）	156
160		159
163		155
164		151
165		147
166		143

- 次の文章を読んで、あとの問い合わせに答えなさい。



学習日  
月 日

CAMP



### 〈佐藤多佳子「黄色い目の魚」より〉

(注)

アシさん＝イラストを描く仕事のアシスタントのこと。

弁慶＝ここでは、通ちゃんのかつているねこのこと。

ラフ＝ざつと描いたイラスト。下書き。

(1)

——線①「あまりに今の気持ちにフィットする風景」とあります  
が、次の①～③の風景から、「私」のどんな気持ちが想像できますか。  
それぞれあてはまるものがあとから選び、記号で答えなさい。

- ① ねんど色の低い空
- ② 花火の残骸

(2)

——線②「死体のように目は物を見ていない」とあります  
のとき、「通ちゃん」は何をしていましたか。次から最もふさわしいものを選び、記号で答えなさい。

- ア つかれきって、休んでいた。
- イ 「私」のことを心配していた。
- ウ イラストの構想を練っていた。
- エ 悲しみにしずんでいた。

考え方

「ひとつ考えこんでいた」と書いてあれば、わかりやすくなりますが、「通ちゃん」のふんいきまで味わうことはできません。「死体のよう」とまで表現されるほど集中していたのだと読んだあとなので、このあと「通ちゃん」が、急に「私」が泣いていることに気づいたときのおどろきが、本物だと理解できます。

(3)

——線③「壊れた水道」とは、だれの、どんな様子をたとえた表現ですか。書いて答えなさい。

- ア 重くしづんだ気持ち
- イ ライラした気持ち
- ウ なつかしい気持ち

- エ 希望にすがりつく気持ち
- オ もえあがるような気持ち

考え方

自分のことなのに、人のことを言っているようなつき放した表現をしています。自分でも自分のことを、手におえないような気持ちになっている様子が、このようないろから感じられます。

考え方

「物語」も、「小説」と言われるようなものになつてみると、「だれが、どうした」というストーリーよりも、登場人物の心の動きが細かくえがかれたものが多くなります。表現されている場面の様子に、人物の気持ちが映し出されていることが多いので、風景などの表現も読み飛ばしてはいけません。そこから感じとれることを大切に、読み進めていくようにします。

- 次の文章を読んで、あとの問い合わせに答えなさい。

CAMP

〈野坂昭如「年老いた雌狼と女の子の話」より〉

- (1) この物語は、戦争中のできごとを書いています。それが、はつきりとわかる一文を見つけて、書きぬいて答えなさい。

(4) —線②「オオカミを怖がらない人間」とあります。が、女の子がそういう態度をとったのはなぜですか。次から最もふさわしいものを選び、記号で答えなさい。

ア まだオオカミの怖さを知らない小さな女の子だつたから。

イ だれでもそばにいてくれたらうれしかつたから。  
ウ 自分がかつていた犬とまちがえたから。

エ オオカミが、顔などをなめてくれたから。

- (5) ①オオカミが女の子に対して持っている気持ち、②女の子がオオカミに対して持っている気持ちとして、それぞれ最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

① ウ イ ア とまどい  
エ 不安 めんどう  
                いらだち

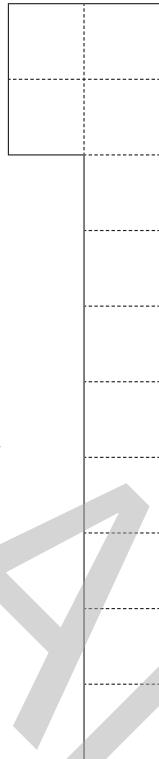
② ウ イ ア 興味  
エ 不安 信らい  
                いたわり

単元1の新出漢字

4ページ

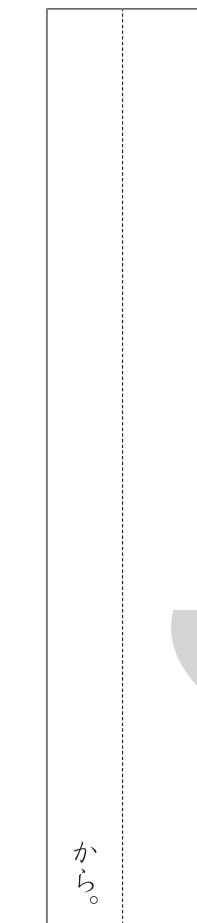
枚 砂 灰  
座 机 カイ／はい  
マイ ザ／すわ（る）  
砂 サ／シャ／すな  
机 キ／つくえ

- (3) —線①「どうも、おかしい」とあります。が、オオカミは、なぜおかしいと感じたのですか。「うのに、うから。」という形で、書いて答えなさい。

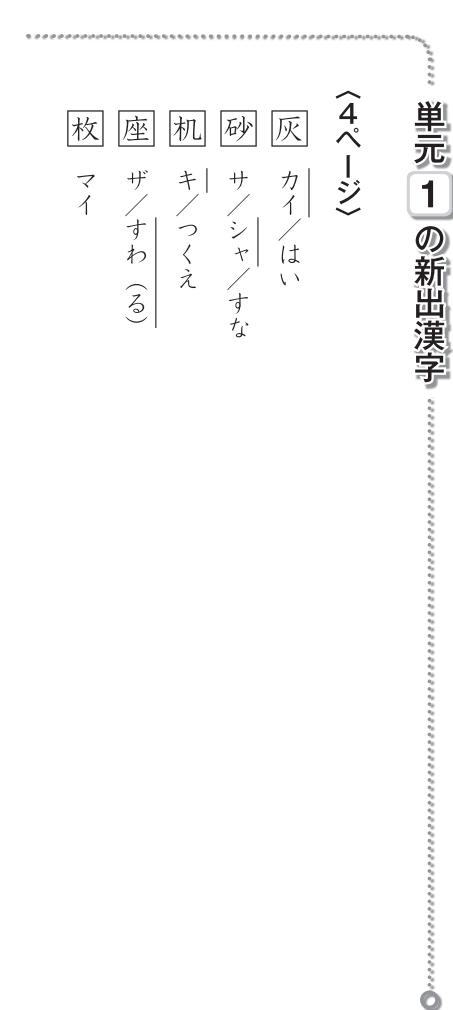


(2)

- オオカミは、どんな目的で旅に出たのですか。それがわかる部分を本文中から十二字で書きぬいて答えなさい。



から。





- 次の文章を読んで、あとの問い合わせに答えなさい。

学習日  
月 日

(注)

しり馬にの（る）|| 考えもなしに、人と

「ぼくがぼくである」と「より」  
〈山中恒 やまなかひさし〉

(1) — 線①「ちょっとうらやましいと思った」とあります、秀一は、なぜ、勉強をはじめる夏代をうらやましく思つたのですか。次から最もふさわしいものを選び、記号で答えなさい。

- ア 家出してきて、勉強道具を家に置いてしまったから。  
イ やれといわれないで勉強する夏代は、かつこよかつたから。  
ウ テレビもなく、勉強しやすい静かなかんきょううだつたから。  
エ 夏代が、役立つことばかり勉強していたから。

考え方

この物語のように、登場人物の独白（ひとりでずっと話していくこと）が何ページにもわたるものは、気持ちを理解するための手がかりがたくさんあって、わかりやすいですが、多過ぎてわかりにくいとも言えます。ポイントは、まとまりごとのキーワードを見つけること、そして、人物のおかれの状況ようと関連させて考えることです。「ちょっとうらやましいと思った」のあとの独白の部分のキーワードは、「かつこいいことをたまにはやってみたいさ」です。秀一は、今までの自分と、夏代を比べて考えています。

(2) — 線②「どうしても、いろいろ考えてしまう」について、次の問い合わせに答えなさい。  
① 家出をする前、秀一が考えていたことの具体例を、本文中から二十一字で書きぬいて答えなさい。

- ② 今、秀一は、どんなことを考えなければならぬのですか。本文から七字で書きぬいて答えなさい。

(3) 今、秀一は、「考える」ということについて、どんなふうに感じていますか。次から最もふさわしいものを選び、記号で答えなさい。

- ア なつかしい イ たいへんだ  
ウ さびしい エ おもしろい

考え方

「家を出ちまうつことは、」で始まる独白のあとに、マユミのおしゃべりを「なつかしいとさえ思つた」、「母の小言もわるくないと思つた」とあります。なぜこう考えたのかと調べるつもりで独白部分を読むと、うまく整理できます。  
秀一は、自分で決めて自分で行動することのむずかしさを実感し、今までわざわざいとしか思えなかつた、母や妹とのかかわりを見直します。

(3) — 線③「ぎくりとした」とありますが、秀一がぎくりとした理由としては、老人の声のふとそのほかに何がありますか。「うから」という形で、書いて答えなさい。

から。

考え方

登場人物同士のかかわり方は、心情の変化の大きなカギになります。この物語の場合、秀一が家出をして住むことになつた家の様子や、そこに住む老人が、秀一にいろいろなことを考えさせていくようだと類推できます。

- 次の文章を読んで、あとの問い合わせに答えなさい。

CAMP



